

<ユーザー紹介>

～比屋根牧場～

比屋根牧場さんは約30年前、さとうきび生産農家だった父、弘さんが母牛5頭で創業。さとうきび畑を徐々に牧草地に変換しながら増頭をしてきました。現在は後継者として和史さん、恵さんご夫婦（右写真）が繁殖母牛70頭を飼養、農場を切り盛りしております。

和史さんは1975年、石垣島で産声をあげ地元の高校卒業後、親元から離れたくて…？琉球大学へ進学。

4年間の学生生活を満喫してもまだ足り

ず、1997年大学卒業と同時に上京、会社に就職してサラリーマンとして社会勉強？を積み重ねました。その6年後の2003年、綺麗な空気と海を求めて実家に戻り、後継者として本格的に牧場経営に参画しました。

一方、新潟のサラリーマン家庭で育った二人姉妹の次女で行動派の恵さんは、やはり親元を離れたくて…と言うよりも、放浪癖…いや、好奇心が旺盛だったのでしょうか？

以前から海外や色々な地方を旅していたようです。元々“牛さん好き人間”の恵さんは牛さんと海と太陽を求めて？はるばる石垣島へやって来ました。

和史さんが石垣島に戻る前の年から島民になってフリーター？をしていましたが、縁あって比屋根牧場で働く事に…。あとは“赤い糸”がだんだん太く、短くなって…ご夫婦です！ホント、人の巡り合わせというものは不思議なものですねっ！

さて、肝心なアースジェネターとの出会いは2006年5月末に石垣島の居酒屋さんで、八重山畜産青年部リーダーである新垣公得さん（現フロンティア産業八重山支店長）が開催してくれた“飲み方”兼“勉強会？”でした！

勉強会の成果があり、飲み方の酔った勢いもあって？全頭給与を開始する事になりました。

給与開始3ヶ月経過した頃から牛舎内臭気が軽減され始めたと共に、それまで頻発していた子牛の下痢が少なく、あるいは治りが早く軽く済むようになってきました。



比屋根ご夫妻と愛犬“CHIBI子”



粗飼料たっぷり母牛群

さらに給与半年後には益々その発症頻度が少なくなり、1年経過した頃には子牛の下痢で獣医さんにお世話になる回数が極端に少なくなりました。

下痢が少ないと言うことは、粗飼料の食い込みが良くなり、それに伴ってルーメン機能も発達します。

このような状態になると子牛の成育は良くなり、肋幅があって伸びもありセリでも上位の常連さんになっています。

現在はアースジェネターを給与開始してから3年経過していますが、牛舎に入っても悪臭はほとんどせず、牛さんと乾草の匂いがするだけです。

また、母牛は毛艶も良く、お尻にはボロがほとんど付いていずとてもセクシー？です！これはルーメン発酵の状態が安定していて健康だという何よりの証です！

育成舎に移動する前に通路で休んでいた子牛ちゃん達はそばに行っても逃げることもなく座ったまま…。これはご夫婦が普段から優しく接しているからストレスが無く、人に対しての恐怖心がないからです。表情もとても穏やかでした！

アースジェネターの大切な仕事の一つである堆肥は、今では臭気も少なく発酵スピードも相当改善されています。

比屋根さんは農場敷地の一角でスイカや野菜、マンゴーの栽培をされており、ここで作った堆肥を継続投入しています。

収穫した作物は味、量なども以前とは見違えるような出来映えだそうです！

これが理想的な場内循環有畜農業！

これからも良い牛さん創りと、邪魔者扱いされていたウンチを上手に堆肥化して、健康的で美味しい作物をたくさん作って大いに楽しんで下さいねっ！

モチロン、私も楽しみにしています！！（佐藤隆司）



ルーメン発酵が良いとボロが付きません



子牛ちゃん達はストレスも無くノンビリ…



運動場にある堆肥舎